

令和5年度「全国学力・学習状況調査結果」概要

～阿南市小中学校における学力の傾向と対策について～

阿南市教育委員会

この資料は、令和5年度全国学力・学習状況調査結果の分析をもとに、阿南市の子どもたちの学力や学習状況の傾向をまとめたものです。

1 調査の概要

- 調査目的
 - ・全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 - ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
 - ・この取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 調査対象 小学校第6学年の児童、中学校第3学年の生徒
- 調査事項及び手法
 - ・教科に関する調査：国語、算数・数学、英語（中学校のみ）
※次の内容を一体的に問うもの
 - （常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等）
 - （知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力）
 - （様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等）
 - ・質問紙調査：学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問
※本年度の主な調査項目
 - （挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等）
 - （地域や社会に関わる活動の状況等）
 - （ICTを活用した学習状況）
 - （主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況）
 - （学習に対する興味・関心や授業の理解度等）
- 実施日時 令和5年4月18日（火）
 - 【小学校調査】
 - 1時限目（国語：45分）2時限目（算数：45分）
 - 児童質問紙（20～40分）
 - 【中学校調査】
 - 1時限目（国語：50分）2時限目（数学：50分）3時限目（英語：45分）
 - ※英語「話すこと」各校文科省指定日（4/18～5/26）
 - 生徒質問紙（20～45分）

2 小学校について

(1) 学力調査

① 全体的な傾向

- 1 国語では、正答率が全国平均よりやや上回りました。
- 2 算数では、正答率が全国平均よりやや上回りました。
- 3 無解答率は、国語・算数ともに全国平均より低くなっていました。

② 結果分析等の概要

□ 国語

○調査問題の主な内容

- ・ グラフを用いて、学校の米作りの問題点と解決方法を書く。
- ・ 資料を読み、運動と食事について分かったことを基に、自分ができそうなことをまとめて書く。
- ・ 資料の情報をどのように整理しているかについて説明したものとして適切なものを選択する。
- ・ 学校ボランティアの人たちにインタビューをして分かったことをまとめて書く。
- ・ 漢字を文の中で正しく使う。

◆成果が見られる点

- ◇ 「言葉の特徴や使い方」に関する問題では、送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うことができています。また、文章の種類とその特徴について理解することもできています。
- ◇ 「読むこと」に関する問題では、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約したものを選択することができています。
- ◇ 「話すこと・聞くこと」に関する問題では、必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることができています。

◆課題が見られる点

- ◇ 図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題があります。
- ◇ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることに課題があります。
- ◇ 日常よく使われる敬語を理解することに課題があります。

◆指導改善のポイント

- ◇ 自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することが必要です。
- ◇ 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の様々な言語活動において、話や文章の種類とその特徴を意識させることが大切です。
- ◇ 日常生活の実際の場面を通して、尊敬語と謙譲語について理解できるよう指導することが必要です。

□ 算数

○調査問題の主な内容

- ・ 椅子の数が2倍になっても、椅子を重ねた高さは2倍になっていないことについて、表の数を使って書く。(数と計算)
- ・ 切って開いた三角形を正三角形にするために、開く前の三角形の角の大きさを書く。(図形)
- ・ 3種類のファイル23人分を全部並べた長さの求め方と答えを記述し、全部のファイルを棚に入れることができるかどうかを判断する。(数と計算)
- ・ 二つのグラフから、30分以上の運動をした日数が「1日」と答えた人数に着目して、分かることを書く。(データの活用)

◆成果が見られる点

- ◇ 「数と計算」に関する問題では、() を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ることができています。
- ◇ 「図形」に関する問題では、正方形の意味や性質について理解することができています。
- ◇ 「変化と関係」に関する問題では、伴って変わる二つの数量について、表の変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることができています。
- ◇ 「データの活用」に関する問題では、「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることができています。

◆課題が見られる点

- ◇ (2位数) ÷ (1位数) の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えることに課題があります。
- ◇ 百分率で表された割合について理解することに課題があります。
- ◇ 高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を記述することに課題があります。

◆指導改善のポイント

- ◇ 「数と式」では、筆算を具体物や図に表すことで、式と関連付けて考察することが重要です。
- ◇ 「変化と関係」では、日常生活の場面において百分率で表された割合について、具体的な数量の関係に基づいて理解できるようにすることが重要です。
- ◇ 「図形」では、底辺と高さの関係に着目し、図形の面積の求め方から面積の大小を判断できるようにすることが重要です。

(2) 質問紙調査

- ◇ 「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」の質問に対して、「当てはまる」などの肯定的な回答が全国平均を上回っています。
- ◇ 「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」の質問に対しては、昨年度に引き続き「当てはまる」などの肯定的な回答が全国平均を上回っています。
- ◇ 「読書は好きです」の質問では、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合が73%と全国平均を上回っています。
- ◇ 「授業でPC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」の質問については、「ほぼ毎日使用している」と回答した割合は全国平均を下回っています。
- ◇ 授業において「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」や「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問では、「発表した」「当てはまる」などの肯定的な回答の割合は、全国平均を下回っています。

3 中学校について

(1) 学力調査

① 全体的な傾向

- 1 国語では、正答率が全国平均をやや下回りました。
- 2 数学では、正答率が全国平均をやや下回りました。
- 3 英語では、正答率が全国平均をやや下回りました。
- 4 解答欄に記入がない無解答率は、全国平均より高くなっていました。

② 結果分析等の概要

□ 国語

○調査問題の主な内容

- ・インタビューのまとめとしてどのようなことを述べるのか、自分の考えを書く。
- ・読書に関する二つの文章を参考にして、これからどのように本を読みたいかについて考え、読書に関する知識や経験に触れながら自分の考えを書く。
- ・「判じ絵」についてまとめているレポートの「『判じ絵』の解読の面白さ」と見出しを付けた部分に示す具体例を選択し、その解読の仕方の説明を書く。
- ・古典の原文の中の語句に対応する言葉を、現代語で書かれた文章から抜き出す。

◆成果が見られる点

- ◇ 「言葉の特徴や使い方」に関する問題では、事象や行為、心情を表す語句について理解することができています。
- ◇ 「我が国の言語文化」に関する問題では、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができています。
- ◇ 「話すこと・聞くこと」に関する問題では、話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問することができています。

◆課題が見られる点

- ◇ 文脈に即して漢字を正しく書くことに課題があります。
- ◇ 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることに課題があります。
- ◇ 読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて文章を整えることに課題があります。
- ◇ 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことに

課題があります。

◆指導改善のポイント

今後の学習指導に当たっては、情報と情報との関係を理解する指導や自分の考えが伝わる文書になるように、根拠を明確にして書く指導の充実が必要です。

□ 数学

○調査問題の主な内容

- ・ -5 、 0 、 3 、 4 、 7 、 9 の中から自然数を全て選ぶ。(数と式)
- ・ はじめの数にかける数が幾つ、たす数が幾つであれば、その数の和がいつでも 4 の倍数になるかを説明する。(数と式)
- ・ 二つの直線が平行になることを、三角形の合同を基にして証明する。(図形)
- ・ 駅伝で、後からスタートした新緑大学の選手が晴天大学の選手に追いつく地点を求める方法を、グラフや式を用いて説明する。(関数)
- ・ 2006 年～ 2020 年の黄葉日は、 1991 年～ 2005 年の黄葉日より遅くなっている傾向にあると主張することができる理由を、二つの箱ひげ図の箱に着目して説明する。(データの活用)

◆成果が見られる点

- ◇ 「数と式」に関する問題では、数と整式の乗法の計算をすることができています。また、問題場面における考察の対象を明確に捉えることができています。
- ◇ 「データの活用」に関する問題では、四分位範囲の意味を理解することができています。

◆課題が見られる点

- ◇ 複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題があります。
- ◇ 空間における平面が同一線上にない 3 点で決定されることを理解することやある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することに課題があります。

◆指導改善のポイント

今後の学習指導に当たっては、証明を振り返り、図形の性質を論理的に考察する活動やデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を説明する活動の充実が必要です。

□ 英 語

○調査問題の主な内容

- ・自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取る。
(聞くこと)
- ・文と文との関係を正確に読み取り、短い文章の概要を捉える。
(読むこと)
- ・短い文章の要点を捉えて、考えとその理由を書く。
(読むこと、書くこと)
- ・即興で伝え合うとともに、考えとその理由を述べ合う。
(話すこと[やり取り])
- ・説明を聞いて、考えとその理由を話す。
(聞くこと、「話すこと[発表]」)

◆成果が見られる点

- ◇ 「聞くこと」に関する問題では、ある情報に関して話し手の交換がなく話されれば、情報を正確に聞き取ることができています。
- ◇ 「読むこと」に関する問題では、「事実・情報を伝える」と「考えや意図を伝える」という言語の働きを理解し、事実と考えを区別して読むことができています。
- ◇ 「書くこと」に関する問題では、未来表現 (be going to)の肯定文を正確に書くことができています。

◆課題が見られる点

- ◇ 社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことに課題があります。
- ◇ 日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことに課題があります。
- ◇ 即興で伝え合うこと、社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すことに課題があります。

◆指導改善のポイント

今後の学習指導に当たっては、読んだことを基に自分の考えとその理由を書く指導や言語の働きを理解し、場面や状況に応じて表現を使い分ける指導の充実が必要と考えます。また、語と語の関連や代名詞、接続表現などを手掛かりにしながら、段落内の情報の関係を正確に把握することや基本的な語や文法事項等を理解し、即興で伝え合う指導の充実が必要です。

(2) 質問紙調査

- ◇ 「朝食を毎日食べていますか」の質問に対しては92%が毎日食べていると回答しています。
- ◇ 「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」の質問に対して、「当てはまる」などの肯定的な回答が全国平均を上回っています。
- ◇ 「自分に良いところがあると思いますか」「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問について肯定的な回答は昨年度に引き続き全国平均を上回っています。
- ◇ 「新聞を読んでいますか」「読書は好きですか」の質問に対して、昨年に引き続き、肯定的な回答が全国平均を上回っています。
- ◇ 「授業でPC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」の質問については、「ほぼ毎日使用している」と回答した割合は全国平均を下回っています。
- ◇ 授業において「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」や「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問では、「発表した」「当てはまる」などの肯定的な回答の割合は、全国平均を下回っています。

4 今後の対策について

- 1 各校ごとに調査結果を分析し、自校の課題を把握するとともに、改善策について全教職員の共通理解を図り、組織的に学力向上に向けた取組を推進します。
- 2 GIGAスクール構想の実現に向け、1人1台端末等、ICTの有効活用を一層推進するため、教員研修の実施や大型提示装置の利活用など、ソフト・ハードの両面からの支援を図ります。
- 3 図書館サポーターの派遣や、学校図書費の充実等により、子どもの読書活動の活性化を図り、問題解決能力育成の基礎となる読解力の向上を図ります。
- 4 市の指定研究事業の活性化を図り、主体的・対話的で深い学びを実現するための、ICTを活用した授業改善に関する研究を進め、その成果を普及することで、市全体の教員の授業力向上を図ります。
- 5 基本的な生活習慣や家庭学習の充実等に向けて、家庭との連携を図ると共に、各校のHPや学校だより等による情報提供に取り組みます。